

夏の高校野球山口大会

萩商工一下関工科、萩一宇部 コミチャンで生中継

第107回全国高等学校野球選手権大会山口大会が7月12日から県内4会場で開かれる。萩阿武地域からは萩商工が下関会場の開幕カード(12日午前9時30分)で下関工科と、萩が宇部会場で13日午前10時から宇部と対戦する。はあぶビジョンでは、両校の熱戦の模様を生中継する。

萩商工「下剋上」へ能力底上げ

今年のチームスローガンは「下剋上」。秋の新人戦で勝てなかつた苦い経験をもとに「下から這い上がる」という思いが込められている。

負けても下に向かず、練習に打ち込む。そんな部員たちの精神的支柱となっているのがキヤブテン石飛。入部当初から、練習の準備を率先して行なうなど、背中でチームを引っ張る。少し沈むスライダーが決め球の頼れるエースだ。

初戦突破のカギを

握るのが、リードオフマン小野の活躍。俊足が自慢の好打者で、「自分が出墨してチームを活気づけたい」と闘志を燃やす。守備範囲の広さも光る。2年生でクリーンナップを任されるムードメーカーの高橋にも期待したい。

石橋監督は大会に

向けた課題として

「能力の底上げ」を挙げ、ていねいな捕球や送球を徹底する。「ファイター精神」をアボールやエラーをいかなくすかが勝つための近道」と監督。



■萩商工高等学校野球部 ●監督 石橋 知治

3年 石飛 帆高(萩西)	3年 古田 紗也(仙崎)	2年 高橋 空(萩西)	1年 平畠 韶己(萩東)
3年 小野 俊介(阿武)	2年 角屋 司龍(萩西)	2年 津村凜太朗(菱海)	1年 磐本 悠貴(三隅)
3年 桑嶋 大翔(阿武)	2年 中村 渉(菱海)	2年 村田 駿(仙崎)	1年 高野 蒼真(萩東)
3年 白石 大和(阿武)	2年 林 璃久(三隅)	1年 伊藤 夏空(須佐)	1年 寺田 優斗(萩西)
3年 吉村 広大(阿武)	2年 藤田 萱希(大井)	1年 宮野 彰大(三隅)	1年 岡田 大和(萩東)
3年 大崎 優(萩西)	2年 篠原虎太郎(三隅)	1年 石飛 勉(萩東)	1年 伏谷 樹一(萩東)



■萩高等学校野球部 ●監督 小田 和輝

3年 堀田 佳雅(深川)	2年 中川 雄仁(日置)	2年 金子 遼(萩西)	1年 斎藤 遼真(萩東)
3年 大野 凛士(萩西)	2年 國光 康太(萩東)	2年 大中 涼輔(深川)	1年 恩村 勘介(萩西)
3年 植山 健成(萩東)	2年 中田 楓汰(仙崎)	2年 二階堂虎徹(萩西)	
3年 渡辺 陽翔(萩西)	2年 山本 莞太(萩東)	1年 藤本 一翼(深川)	
3年 小野洸志郎(阿武)	2年 三浦 隆貴(阿武)	1年 春藤 啓斗(日置)	
3年 山縣 咲斗(萩西)	2年 坂田 寛人(萩東)	1年 德原 煌(萩西)	

萩 全員野球でベスト8

この春から指揮をとる小田監督は「接戦に強い、ピンチにも動じないチームにしたい」と、選手目線での指導を心がける。監督の思いを選手に伝えるのはキヤブテン大野。チームとしての成長を感じ、その成果を見せないと仲間を鼓舞する。体格を生かした長打にも期待がかかる。

エース堀田は、昨年の夏も登板し経験十分。ていねいにコースを突くピッティングで、目標のベスト8にチャレンジする。今

ムを導こうと気合いに入る。

夏の大会に向け、チームで取り組んできたのが後につなげるバッティング。その代表格がクリーンナップの一員、2年生の中田。チヤンスを作つて長打力のある大野に繋げる役回りだ。山縣、堀田、國光、渡辺らの機動力にも期待。

今季のチームスローガンは「全員野球～SSS（心・信・新）～」。心分。ていねいにコースを磨き、仲間を信じる全員野球でベスト8を目指す。

7月12日
開幕